

昭和女大附中 ○吉本智子 昭和女大 村井不二子

〔目的〕 アイヌ衣服には、本州では見られない様々な独特の文様がある。その文様を構成している布、文様布はアイヌの人達にとって、交易によってしか手に入らないものであったと言われる。その限られた布をいかに工夫して使用したかという点から、文様と文様布量の関連性、布の貴重性、衣服布と文様布のかかわり、また衣服種類別の視覚的文様領域の比較について考察する。

〔方法〕 実際に文様布に使われている布の量(文様布量)の計測を行い、衣服種類別文様布量、素材別文様布量、衣服布量に対する文様布量の割合を求める。またそれを逆に、計測された布量から、その文様を再現して見ることにより、布の貴重性、文様と布量のかかわり、また視覚的文様領域の測定による衣服種類別の関連性について考察を進める。

〔結果〕 今回は黒裂置文衣3点を対象に行った。黒裂置文衣は、前回のアツシ同様、布をテープ状にしたものを切伏せしていく切伏文様である。計測された布量から文様を再現した点においては、実際の布量とは多少の差異が見られた。これは布を曲げる時のいせこみの分量や、実際の布と試験布との布の厚さのわずかな差などが原因であると考えられる。しかし多少の差異が見られたものの衣服布量は、視覚的文様領域(文様間の空間を含む文様全体の範囲)よりもだいぶ少ないものであった。布を細いテープ状にして用いることによって少量の布でも衣服全体に文様を施すことができ、貴重な布を工夫して使っていたことがうかがえた。またアツシと黒裂置文衣の衣服布量に対する視覚的文様領域を測定した結果、2つの衣服文様の関連性は高いと考えられる。